二〇一七年度 神奈川県公立高校入試問題

五〇分
一〇〇点

（注）解答欄にマス目（例：□□□）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。

一

次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の――線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。

1　大事な試合で勝利に貢献した。

2　少数の企業により市場の寡占が進む。

3　作成した冊子を頒布する。

4　学習に取り組むことの大切さを諭す。

1	2	3	4
			す

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(イ) 次のa～dの各文中の――線をつけたカタカナを漢字で表したとき、その漢字と同じ漢字が使われている熟語をそれぞれあとから一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a　町の歴史に関するコウエンを聞く。

1 講話　2 構図　3 時候　4 難航

b　勝敗をヨソクするのは難しい。

1 側転　2 測量　3 消息　4 加速

c　学校のエンカクを調べる。

1 遠足　2 延期　3 円満　4 沿道

d　劇団をヒキいて巡業に出る。

1 卒業　2 率直　3 関連　4 強引

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(ウ) 次の文中の――線をつけた「と」のうち、同じはたらきをするものの組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

友だちアと山道を登っていくイと山が紅葉に彩られており、山頂から遠くの景色を眺めるウと、晴れ晴れエとした気分になった。

1 アとイ　2 アとエ　3 イとウ　4 ウとエ

(エ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

まだもののかたちに雪の積もりをり　片山由美子（かたやまゆみこ）

1 降り積もった雪で白一色となり、「もののかたち」がわからなくなった光景を、「まだ」「かたち」のように母音の中でも「ア」の音を多用し、広い雪原を想像させることで印象的に表現している。

2 降り積もった雪に覆われていた世界に、ようやく春が訪れて「もののかたち」がはっきりと現れてきた喜びを、ひらがなを多用しながら、優しくとけている雪を想像させて感動的に表現している。

3 雪が降り続いて視界が悪くなっていく中、「もののかたち」が変わるほど雪が積もっているさまを、「雪」「積」の漢字を使用して、雪の固さや冷たさを印象づけることにより絵画的に表現している。

4 雪が降り続いて周りが白一色になりつつも、それぞれの「もののかたち」がかろうじてわかる状態を、ひらがなを多用しながら、積もった雪の柔らかさを印象づけることで効果的に表現している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注)天保七年の春、(注)小千谷の(注)縮商人芳沢屋東五郎といふもの、商ひのため西国にいたり、ある城下に逗留の間、旅宿の主が話に、「この近在の(注)農人、おのれが田地のうちに病める鶴ありて死にいたらんとするを見つけ、貯へたる(注)人参にて鶴の病を養ひしに、日あらず（何日もたたないで）病癒えて飛び去りけり。さて翌年の十月、鶴二羽かの農人が家の庭近く舞ひくだり、稲二茎を落とし一声づつ鳴きて飛び去りけり。主人拾ひ取りて見るにその丈六尺にあまり、（その長さは一・八メートル以上で）穂もこれにつれて長く、穂の一枝に稲四五百粒あり。主人おもへらく、『さては去年の病鶴、恩に報はんため異国より咥えきたりしならん。（くわえてきたのだろう）何にもあれ、（何であっても）いと珍しき稲なり。』とて(注)領主に奉りけるに、しばらくとどめおかれしのち、そのまま主人に賜はり、1『よく養へ。』と仰せによりて、苗のころにいたり、（田植えのころになって）心をつくして植ゑつけけるに、2鶴が与へしに変はらずよく生ひいでければ、(注)国の守へも奉りし。」と語れり。

東五郎なほその村その人をも尋ね聞けば、鶴を助けたる人は東五郎が縮を売りたる家なれば、すぐさまその家にいたり、なほ委しく聞きて、「さて国の土産にせん、(注)籾を一二粒賜はれかし。（くださいませ）」と乞ひければ、（求めたところ）主人「3越後は米のよき国と聞けばことさらに生ひなん。」とて、籾五六十粒与へたるを国へ持ち帰りて事のよしを申して、(注)邦君に奉りしを、御城内に植ゑしめたまひ、（植えさせなさって）東五郎へ御褒賞などありし。

（「北越雪譜」より）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

（注）天保＝江戸時代の年号。一八三〇～一八四四年。
小千谷＝新潟県中南部の地名。あとに出てくる「越後」は、現在の新潟県にほぼ相当する。
縮＝細かいしわのある夏向きの織物。
農人＝あとに出てくる「主人」と同じ人物。
人参＝薬用として使われるニンジン。
領主＝ここでは「農人」の住む村を治めている者。
国の守＝ここでは領国を治めている者。
籾＝もみがらがついたままの米。ここでは種子としてまくための種籾。
邦君＝「小千谷」を治めている者。

(ア) ――線1「『よく養へ。』と仰せによりて」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「領主」が「農人」に「米を大切に育てなさい。」とおっしゃったので
2 「領主」が「東五郎」に「鶴をしっかりと飼育しなさい。」とおっしゃったので
3 「領主」が「旅宿の主」に「鶴を急いで手当てしなさい。」とおっしゃったので
4 「領主」が「国の守」に「米を食べて体を大切にしなさい。」とおっしゃったので

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(イ) ――線2「鶴が与へしに変はらずよく生ひいでければ」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「鶴」が授けた稲のように作ろうとしたところ、雑草が多く生えてきたということ。
2 「鶴」が運んできた稲にも関わらず、いつも作る稲と同じように伸びたということ。
3 「鶴」がもたらした稲と同じく立派に成長して、大量の稲の粒がついたということ。
4 「鶴」が持ちこんだ稲をご飯にして食べた人は、誰でも力がみなぎったということ。

(ウ) ――線3「越後は米のよき国と聞けばことさらに生ひなん。」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 越後は良い米を作るのに適した国と聞いていますので、何も世話をしなくても生えてくるでしょう。
2 越後は米の種類が多い国と聞いていますので、籾を今さら持ちこんでも注目されないでしょう。
3 越後は米の取り引きが盛んな国と聞いていますので、収穫したらさらにもうかることでしょう。
4 越後は良い米が多く生産される国と聞いていますので、苗を植えたら格別によく育つことでしょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

(エ)　本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　「農人」は、田んぼのわなにかかった「鶴」を助けて介抱した結果、その恩返しとして「稲一茎」を手に入れて、人々に豊かな恵みを与えた。

2　「東五郎」は、「鶴」からもたらされた稲の話を聞きつけたことをきっかけに、その籾を手に入れて小千谷の地に持ち帰り、「邦君」にささげた。

3　「農人」は、ある宿に泊まって「旅宿の主」と話が弾んだことで、うっかりと稲の秘密を明かしてしまい、「籾五六十粒」を譲ることになった。

4　「東五郎」は、「旅宿の主」を通して貴重な稲の話を聞き、「農人」を訪ねてその籾を譲ってもらったお礼に縮を渡したところ、大変喜ばれた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

> 尋常小学校（旧学制の小学校）五年生の「浩三（こうぞう）」は、同じ長屋で裁縫の仕事をしている「齣江（こまえ）」にかわいがられている。「浩三」の兄の「浩一（こういち）」は、母親（「おかみさん」）とともに、魚屋を営んでいる。

齣江はここ数日、浩三と顔を合わせていない。

家の手伝いを無断でさぼったあの日の晩、長屋中に響き渡る声でおかみさんが雷を落としたから、住人と接するのが気恥ずかしいのだろう。学校へ行くときは必ず格子（こうし）越しに「おはよう。」と声を放っていたのに、ここ数日は顔を伏せて路地を走り去ってしまうのだ。浩三と会わなくなって五日目の朝、仕事部屋で針を動かしていると格子の前を素早く横切る影が目に入った。1 齣江は後先なく、「浩ちゃん！」と呼び止めた。

一旦通り過ぎた浩三はしばらくして戻り、叱られた犬のような顔を格子から覗（のぞ）かせた。言うべき言葉を用意していなかった齣江は、不器用に口ごもる。

「気をつけて、いってらっしゃい。」

ようやくそれだけ言って笑みを向けると、浩三は顔を上げ、なにかを懐（なつ）かしむように黒目を揺らした。

「齣さん。僕は自分が荷厄介（にやっかい）だ。人にうまく伝わらないようなことばかり考えている。」

彼は心許（こころもと）なげに言葉を置いた。

「誰にも？」

「うん、誰にも。すべてが伝わらないわけじゃないが、どうにもむつかしいところがある。」

彼女は柔らかにうなずいた。

「そう。そしたら、そこのところが浩ちゃんなのね。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

浩三はぼんやり突っ立っていたが、そのうちおずおずと、

「そいつがあっても、いいのかな?」

と訊いた。

「もちろんよ。そこがないと困るのよ。」

浩三の丸まっていた背が少しく伸びた。2学帽をひょいとあげて会釈をし、幅跳びでもするような足取りで走って行った。

昼過ぎには魚屋のおかみさんがやって来て、「この間は遅くまで騒いで悪かったね。」と、いつものさばけた口調で言った。齣江は笑って首を振り、少しためらってから告げる。

「私、浩ちゃんの考えること、とても好きなのよ。」

おかみさんは口を尖らせ、頬のあたりを掻いている。

「あのね、あの子は(注)中学校に行きたいんだ。それもあって今、むつかしいの。」

齣江には、思わぬことだった。

「浩ちゃんが、そう言ったの?」

「いや。遠慮して言わない。あれの兄さんにも言わないで、ずっと抱え込んでる。でも親だもの。言わなくったってわかる。」

おかみさんは肩をそびやかし、齣江はわずかに身を縮めた。

「まったくこっちは大損だ。人手をひとり欠くんだから。」

「じゃあ、中学にやるの?」

「あの子がちゃんと自分の口で言ったらね。そのくらい言わないといけない。親子だってそこまで甘かぁないんだ。」

それでも学資を支度するのは大変だろう、と齣江は下世話な心配をした。おかみさんは彼女の案じ顔を見て、機敏に察したらしい。「少しは蓄えもあるしね。」と胸を張ってみせた。けれどもすぐに背を丸め、「まぁどうにかなるだろうよ。金のことよりあの子の気持ちだ。」

と、自らを励ますように付け足した。

「あ、そうだ。それより、これ。お山の柿。こないだ騒いだお詫びにね。甘くて旨いよ。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

商売さながらの調子で言って、新聞紙でくるんだものを差し出した。齣江は先般糸屋からもらった干し柿を思い出す。浩三が言ったようにそれはひどく渋くて、片付けるのに難渋したのだ。

「あすこの柿は渋いだろ。そういう難物はね、塩水で漬け柿にするといいんだよ。渋が抜けるからね。」

齣江の戸惑いを見透かしたのか、おかみさんは誇らしげに語った。

「塩水で？」

「そう。そうすっと甘みが出るんだよ。で、そのまま土間に置いとけば、この寒さだ、日持ちもする。渋い柿も工夫次第で生かしようがあってね。」

おかみさんは柿の包みを手渡すと、

「なんにでも抜け道がある。その道を抜けるとこれまでの障りがひっくり返っちまうような。あたしもひと晩寝て醒めたら、百万長者になってりゃ世話ないんだけどねぇ。」

3 軽口を叩き、カラカラ笑って帰っていった。

火鉢の前で包みを開き、齣江はもらったばかりの柿を一口含んだ。卵の黄身のようにつるりと喉に滑ったそれは、驚くほどの甘さで彼女の胸の内を潤していった。

桜が、咲いた。

近所のお山は花の名所だから、あたりは連日花見客で賑わっている。魚屋は年末と並ぶかき入れ時で、このときばかりは一家総出で店に出なければならず、浩一も浩三も昼間は花を楽しむ余裕が持てなかった。だから満開のときを狙って、店が終わった夜遅く、兄弟ふたりで夜桜を見に行くことにしたのだった。

「特等席を見つけてあるんだ。」

浩三が先に立って、ひと気のない真っ暗なお山に分け入っていく。彼は大きな椋の木の下まで来ると、幹に手を掛けて猿のような素早さで登っていった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「おい。どこ行くんだよーう。」

浩一は戸惑いながらも、弟を追って木に登る。途中何度も足を滑らせそうになり、息も絶え絶えにようやっとてっぺん近くまでたどり着いた。すでに登り切って、涼しい顔で枝に腰掛けていた浩三が、

「そら、見ろよ。」

と、得意げに前方を指さす。そちらに顔を向けた浩一は息を呑(の)み、それからうっとり溜息(ためいき)をついた。月明かりに照らされた桜の絨毯(じゅうたん)が、足下からずーっと先まで繋(つな)がっているのだ。

「贅沢(ぜいたく)だろ、桜を上から眺めるなんてさ。」

「ほんとだな。おまえはいっつも面白いことを思いつくんだな。」

浩一はつくづく感心し、桜の海へと静かに心を向けた。だいぶ長いこと経(た)ってから、

「またひとつ、季節が巡ったんだなぁ。」

と、深い息を吐き出した。

「なあ、兄ちゃん。歳(とし)をとるって、どんな感じかな？」

さぁ、と応えながらも浩一は、桜と梅の花びらのように美しいものが、ふくふくと積み重なっていく景色を想像していた。訊いた浩三は、年を経るごとに余分なものを全部こそげ落として核だけになっていく様を頭に浮かべていた。

「兄ちゃんは今、どんなときが一番楽しい？」

浩一はすぐさま、「そりゃ、仕入れのときだ。河岸(かし)の魚はきらきらして、艶とか色とかとてもきれいだもの。」と答えた。浩三は［　　］、隣の枝に足をかけている兄を見た。

「兄ちゃんにはもう、核があるんだな。」

浩三は桜並木に目を戻して、たっぷり息を吸い込んだ。それから、思い切ったふうに告げた。

「4<u>あのさ、僕、母さんに言おうと思う。中学校に行かせてください、って頼んでみようと思う。</u>」

浩一は首を目一杯伸ばし、「それがいいよ。」と何度もうなずいた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「だって僕、おまえにはなんだってできると思っているもの。そいつを疑ったことは一度だってないもの。」

浩三は兄に笑んでから、前へと向き直った。

（木内（きうち）昇（のぼり）「よこまち余話」より。一部表記を改めたところがある。）

（注）中学校＝当時の中学校は、修業年限が五年で、義務教育ではなく授業料が必要であった。

(ア) 本文中の□に入れる語句として最も適するものを、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 疑わしそうに　2 恨めしそうに　3 煩（うるさ）そうに　4 眩（まぶ）しそうに

□

(イ) ――線1「齣江は後先なく、『浩ちゃん！』と呼び止めた。」とあるが、そのときの「齣江」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 母親に説教されて腹が立つのはわかるが、長屋の人と口をきかない態度は不愉快であり、「浩三」に注意をしようととっさに声をかけた。

2 母親に叱られて以来、気恥ずかしさからか普段と様子が違う「浩三」が気がかりで、どうしようという考えもないまま思わず声をかけた。

3 「浩三」が母親に怒られたことをきっかけに、自分のもとから離れてしまうのは寂しいので、言葉を何も用意せずにそのまま声をかけた。

4 「浩三」の中学校進学の希望を知り、他人が口をはさむ問題ではないが、母親に正直に話すことを勧めようとためらいがちに声をかけた。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(ウ)　――線2「学帽をひょいとあげて会釈をし、幅跳びでもするような足取りで走って行った。」とあるが、そのときの「浩三」の気持ちを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　人にうまく伝わらないようなことばかり考えている自分をどう扱ってよいか悩んでいたが、「齣江」が肯定的に受け止めてくれたので安心し、軽やかな気持ちになっている。

2　母親に叱られた出来事を忘れかけていたが、「齣江」に声をかけられて自分が手伝いをさぼった記憶がよみがえり、気恥ずかしさにその場から逃げ出したいと思っている。

3　自分のことを理解しない母親に腹を立てていたが、何も言わないで柔らかにうなずく「齣江」だけは、昔を懐かしんでいる自分の気持ちをわかってくれたと感謝している。

4　家庭の経済状況を察して中学校に進学するべきかどうか悩んでいたが、「齣江」の言葉で家業を手伝う意志が固まり、未来への展望が開けた晴れやかな気持ちになっている。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(エ) ――線3「軽口を叩き、カラカラ笑って帰っていった。」とあるが、そのときの「おかみさん」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「浩三」の学資について心配されていることを迷惑と思いながらも、無理に笑ってみせることで近所づきあいを大切にしようとしている。

2 人生には必ず抜け道があることや「浩三」のことを一番理解しているのは自分であることを示して、母親としての威厳を保とうとしている。

3 兄の「浩一」に魚屋を手伝わせている負い目と「浩三」の学資の問題から目を背けるために、百万長者の夢を見て現実から逃避している。

4 進学を切り出せずに悩む「浩三」の気持ちを受け止めつつ、厳しい家計の現実を前にくよくよしても仕方がないと明るく振る舞っている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

(オ)　――線4「あのさ、僕、母さんに言おうと思う。中学校に行かせてください、って頼んでみようと思う。」とあるが、ここでの「浩三」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　余分なものを全部こそげ落として核だけになっていく様を思い描きながら、これまでの迷いや悩みを振り払った自分の強い意志を表すように読む。

2　生活のために魚屋を手伝う兄に申し訳ないと思い、夜桜に囲まれる眺めを「特等席」から思う存分味わってもらいたいと兄をいたわるように読む。

3　兄には「特等席」を見つけるような才覚もないので、自分が個性と才能を伸ばすために中学校に進学することは当然であると宣言するように読む。

4　仕事を背負っている兄には風格が備わっていることを知り、自分も中学校への進学で多くの経験を重ねていこうとする決意を表明するように読む。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

(カ)　この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　「おかみさん」の独特な言葉遣いや「長屋」「格子」「火鉢」など、昔懐かしい要素を取り入れることによって、人情豊かで伝統的な生活へのあこがれを描いている。
2　「浩三」が一人で抱える悩みを「渋い柿」に例えて、工夫次第でその難物が甘くなることを示しながらも、金銭的な困難を前に立ちすくむ母親の混乱を描いている。
3　思春期の「浩三」が進学を巡る葛藤を経て成長する姿を中心に、それを温かく見守る人々の様子を会話文を多用し、季節感を折りこみながら情緒豊かに描いている。
4　生き方に悩んでいる「浩三」が、長屋の「齣江」や家族に支えられながら次第に己の道を自覚して切り開いていく姿を、「浩三」自身の視点から細かく描いている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いまではインターネットなしには社会は動かなくなっているが、それはインターネットが生まれたからそれを人々が利用するようになり、いつしかそれなしには不便な社会がつくられただけであり、インターネットなしでも社会はちゃんと動く。現に四十年ほど前にはインターネットはなかったけれど、それでも問題なく社会は動いていた。今日では携帯電話は必需品だが、それも四十年ほど前までは存在していなくて、それで何の問題もなかった。現在では街に外食チェーンがあふれているが、それらが存在しなかった時代にも社会は問題なく動いていた。そう考えていけば、今日の社会に存在しているもので、それがなければ社会が破滅してしまうものがどれだけあるのだろうか。おそらく一次産業は必要なもののひとつだろう。ある種の製造業や流通小売業(こうりぎょう)もそのひとつかもしれない。しかし、スーパーやコンビニがない時代にも、社会は問題なく動いていたのである。

私たちの社会では、必要だから生まれたものはそれほど多くない。多くのものは、それぞれの論理でつくりだされただけである。ところがそれが生まれてしまうと、そのことに適応した社会構造が生まれ、それなしには不便と感じる社会が発生してしまう。結果としては社会に必要なものになっても、根源的には社会的な必要性があるとはいえないのである。社会のあり方と経済が一体化していない以上、つまり経済が経済の独自の論理で展開している以上、1経済は根源的な社会性を保持していない。経済が社会性を帯びるのは、それに対応した構造が生まれたからにすぎない。

にもかかわらず、そのシステムのなかで人々は働いている。だからその労働は、根本的には社会性をもってはいない。その結果、自分の労働が社会から必要とされていることを感じとれない虚(むな)しさと、しかしそこに自分の生活の出発点があり、そこにしか自己実現の場がない現実を感じながら人々は働いている。

2近代的な世界がつくりだしたバラバラな論理は、経済や労働を虚しいものにしてしまったのだと思う。経済、経営の論理と労働の論理が食い違い、経済の論理は社会や文化、教育などの論理とも一致していない。これでは社会的に有意義な労働などありようもないのである。

とすると、課題はどこにあるのだろうか。それは、経済が経済以外のものと結びついて展開するかたちを見つけだすことだろう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

それを「半市場経済」としているが、経済の展開と社会の創造が一体化しうる経済のかたちを発見することである。この試みは、3経済に一定の倫理性を要求することにもなる。なぜなら、経済は何のためにあるのかと考えること自体が、経済倫理の追究でもあるからである。今日、経済倫理として語られている、たとえば企業のコンプライアンス（注）の問題というような次元で終わらせるのではなく、経済と社会の関係をもう一度検討しなおしていこうという倫理性が求められているといってもよい。

こうして、社会の一要素として経済をとらえるという課題が生まれてきた。経済を私たちの生きる世界の道具として再構築するという課題が発生してきたのである。経済のあり方と社会の創造を一体的にとらえていく必要性が、である。

戦後のバブル（注）期までの日本の経済は、さまざまな労働が大企業に組織化されていく歴史であったといってもよい。この間に農民数は急減し、街の商店や職人たちも減っていった。いわば自営の人たちが減少し、多くの人たちが企業のもとに組織化されていったのである。もちろん、企業といっても日本では中小企業の裾野が広いことはよく知られているが、この時期には中小企業もまた大企業の下請化（したうけか）していく傾向が強まった。それは4大企業が強い支配権をもった時代であったといってもよい。

ところがこの二十年くらいの間に、雰囲気はかなり変わってきた。中小企業のなかでも下請から独立企業化しようとする動きが強まってきたし、新しく自営業を起こそうとする人たちも増えてきた。新規就農者が増えてきているのも、この動きのひとつだといってもよい。私は群馬県の山村、上野村と東京との二重生活をこの四十年あまり続けているが、現在の上野村の人口の約二割が都市からの移住者である。この動きはどこの農山漁村にいっても見受けられることであって、村で仕事をつくるのも新しい創業である。

NPO（注）などの活動でも、そこに自分たちの仕事場をつくる動きが生まれている。もちろんNPOである以上、自分たちが掲げる目的はある。それを「社会性ミッション」と呼ぶなら、この社会性ミッションを実現していく目的で営利事業も行われる。たとえば、自然環境を維持していくために環境教育のセミナー（注）を実施し、そのセミナーを有料化して事業として展開させるというようなことが行われているのである。

すなわちさまざまな形態はあっても、社会のなかでの自分たちの役割を、仕事づくりを通して実現していこうという動きが今日の社会のなかでは広がっているのである。

このような動きは一般的にソーシャル・ビジネス、あるいはエシカル・ビジネス（それぞれの倫理性にもとづくビジネス）と呼ばれるこ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とが多いが、実際にはこのような概念ではとらえられないほどに、この動きは多様に広がっているといってもよい。裾野には人間の本来の営みの回復をめざす多様な活動があり、それを共同労働の場の確立として実現していこうというのが、ソーシャル・ビジネスなどの動きである。だからこれらは、「半市場経済」の動きといったほうが正確である。

たとえば前記した私が暮らす上野村でも、山のなかの集落の人たちが共同経営している村のレストランがある。このレストランの目的は、集落のコミュニティ(注)を守っていくことと東京の若者などとの交流の場をつくりだすことで、今日的な言い方をすればコミュニティ・ビジネスということになるが、運営している人たちはそんなことを意識しているわけでもない。それは自分たちの生きる世界の創造とともにある活動といったほうがいい。

5このような動きは既存の企業や協同組合などでも起きていて、自分たちの企業を社会的役割のある働きがいを感じられる企業に変えていこうとする試みや、生産者や消費者とともにこの社会の仕組みを変えていこうとする企業なども、さまざまなかたちで生まれている。以前から行われていた障がい者とともに働く職場づくりの展開なども含めて、いま社会の奥では6「多様な経済＝労働のかたちづくり」が試みられている。

これらの動きには共通するものがあることも確かである。そのひとつは経済活動の社会性を回復させようとしていることであり、第二に他者を犠牲にしない、ともに生きる経済をつくりだそうとしていることである。農村の人々とともに生きることのできる経済を創造しようとしたり、途上国の人たちとともに生きる経済をつくろうとしたりするだけではなく、ときに自然という他者とともに生きる経済がめざされていたりもする。

さらに第三の共通性として、経済活動の動機を変えることによって経済を社会づくりと結びなおそうとしていることが挙げられる。コミュニティ・ビジネスと呼ばれているものが、コミュニティの創造や維持と結んだビジネスであるように、あるいはフェアトレード(注)が途上国の社会づくりやそれと結んだ自分たちの社会づくりであるように、経済活動の目的のなかに新しい社会の創造という課題が包み込まれている。だから、それらは経済が市場の論理だけで展開し、さまざまなものを壊してきた歴史への批判であり、今日の暴走する市場経済へのカウンター(注)・カルチャーとして、自分たちの経済をつくりだそうとする試みでもある。

（内山(うちやま)　節(たかし)「半市場経済」より。一部表記を改めたところがある。）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（注）コンプライアンス＝法令などを守ること。
バブル期＝一九八〇年代後半から一九九〇年代初頭に地価等が実態とかけ離れて高騰した時期。
ＮＰＯ＝社会的活動をする非営利の民間組織。
セミナー＝知識や技能などを身に付けるために行う会。
コミュニティ＝地域社会や共同体。
フェアトレード＝発展途上国の農産物や品物などを適正な価格で継続的に購入する取り組み。
カウンター・カルチャー＝主流となっている文化に対抗する文化。

(ア) ――線1「経済は根源的な社会性を保持していない。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ある産業の誕生で別の産業が落ち込むのは必然であり、生活のすべてをインターネットに頼れば、流通小売業はなくても済むから。
2 社会のすべてのものは必要に迫られてあとからつくりだされただけで、ある種の製造業も実は社会性を有していると言えないから。
3 私たちの社会の多くのものは、それぞれの論理でつくりだされただけで、社会的な必要性によって生みだされたものではないから。
4 経済は生活を便利にするが、スーパーやコンビニの普及は都市に限られており、農山漁村にはその恩恵がもたらされていないから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(イ)　――線2「近代的な世界がつくりだしたバラバラな論理は、経済や労働を虚しいものにしてしまった」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　近代においては経済が人間の労働や社会などと結びついておらず、人々は社会に役立っているという実感を得られなくなったから。

2　近代においては機械化が進んで個人が有している才能は次第に必要なくなり、人々は働くことの意味をとらえられなくなったから。

3　近代においては企業の暴走をきっかけにして経済の論理が生活と切り離され、人々は働くことへの意欲を持てないようになったから。

4　近代においては労働の論理に世界が支配され、有意義な労働が消滅したことで、人々は自己実現の場を見いだせなくなったから。

(ウ)　――線3「経済に一定の倫理性を要求する」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　社会にとって企業が必要であると認められるには、法令などを守り、そこで働く人々にも社会性を身に付けさせることが求められているということ。

2　社会において経済を活性化させるためには、経済の動きを視覚的に整理して人の配置や品物の流れを再構築することが求められているということ。

3　経済を市場の論理だけで展開するのではなく、社会のなかの一つの要素として経済がどうあるべきかを考えなおすことが求められているということ。

4　経済の独自の論理を展開するなかで、行きすぎた開発を見なおして、環境の保全と人々の利便性との両立を図ることが求められているということ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(エ) ――線4「大企業が強い支配権をもった」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大企業が裾野の広い中小企業を組織化することによって、経済のあり方と社会の創造を一体化させるよう世界を再構築していったということ。

2 多くの人たちが農業や街の商店、職人などの自営の仕事を離れ、中小企業も下請となることで大企業のもとに組み込まれていったということ。

3 消費者に必要な製品をつくりだす目的から、大企業が強い影響力をもつことで熟練の職人が育てられ、中小企業の裾野が広がったということ。

4 大企業が資本と土地を一手に握ることにより労働への支配力を増し、そこに組織化されまいとする自営業の人々の抵抗が強まったということ。

(オ) ――線5「このような動き」とあるが、それはどのような動きか。次の①、②の条件を満たした一文で書きなさい。

① 文末の 動き。 という語句につながるように**四十五字以上五十五字以内**で書くこと。**文末は、文字数に含めないこと。**

② 「役割」「営み」という二つの語を、どちらもそのまま用いること。

動き。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製·転載を禁止します。

(カ)　――線6「『多様な経済＝労働のかたちづくり』が試みられている。」とあるが、その具体的な内容として合っていないものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1　農山漁村において都市からの移住者だけでコミュニティを作り、自営業を行おうとしていること。
2　自然環境を維持する目的のために、環境教育のセミナーを有料化して事業として展開させること。
3　山のなかの集落の人々がレストランを共同経営することで、地域社会や共同体を守っていくこと。
4　発展途上の国と自分たちの社会づくりのために、途上国の品物などを適正な価格で購入すること。

(キ)　本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

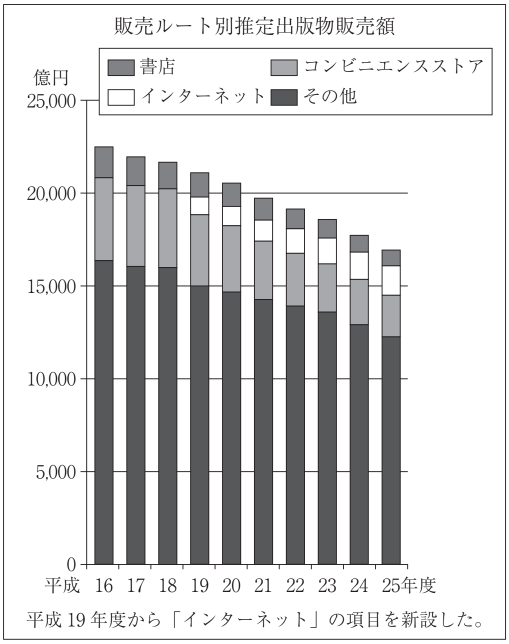
1　物質的な豊かさに適応した社会構造が生まれていることに着目し、便利な生活のために大企業に限らず中小企業も含め「多様な経済」を展開していく意義を、経済用語を多用しながら述べている。
2　システムに組み込まれた労働の虚しさに着目し、自然と向き合う労働のなかにこそ人間の生きがいがあることをふまえて経済と労働の関係を見なおす必要性を、社会の動きを追いながら述べている。
3　市場の論理が人間相互のつながりを壊してきた歴史に着目し、かつてあった信頼感を取り戻すために、「半市場経済」を展開していくことの必要性を、自分の体験を織り込みながら述べている。
4　経済の論理と社会の論理の食い違いに着目し、人間が社会的有用感をもって働くことができるように、経済のかたちを社会のあり方と一体化させる意義を、具体的な事例を紹介しながら述べている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

五

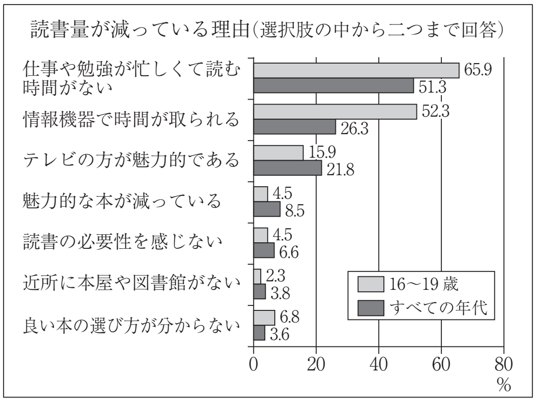
中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」に読書の現状と課題について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、グラフ3と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ1

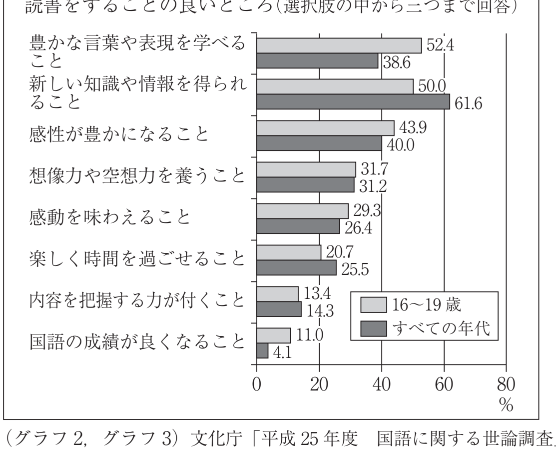


（グラフ 1）日本出版販売株式会社「2014　出版物販売額の実態」より作成。

グラフ2



グラフ3



（グラフ 2，グラフ 3）文化庁「平成 25 年度　国語に関する世論調査」より作成。
グラフは，16～19 歳の年代の割合と 16 歳以上のすべての年代の割合を比較したものである。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

Aさん　本日は、読書の現状と課題がどのようになっているのかを考えてみましょう。まず、文化庁の「平成25年度　国語に関する世論調査」によると、一か月に読む本の冊数として「読まない」と回答した人は、すべての年代で、四十七・五パーセントもいるそうです。

Bさん　それは多いですね。それに関連してグラフ1は、販売ルート別に本がどのくらい売れたかについて金額を表したものですが、これを見ると、本の購入の仕方やそれぞれの販売額を把握できます。平成19年度と平成25年度を比較してみると［　Ⅰ　］ということが分かります。

Cさん　つまり、本の販売額と世論調査の結果を見る限り、「読書離れ」の現状があると言えるようですね。

Dさん　ところが、そうとも言えないようなのです。同じ世論調査の「読書量を増やしたいと思うか」という項目によると、「そう思う」「ややそう思う」を合わせた肯定的な回答は、十六〜十九歳で七十九・三パーセント、すべての年代で六十六・三パーセントもいるそうです。

Aさん　それにもかかわらず、なぜ一か月に本を全く読まない人が多いのでしょうか。

Dさん　グラフ2「読書量が減っている理由」の項目として、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」と答えた人が、十六〜十九歳で六十五・九パーセントと一番多くなっています。また、グラフ2で、十六〜十九歳とすべての年代とを比較したとき、数値の差が［　Ⅱ　］という項目でした。

Bさん　今のDさんの指摘をふまえると、私たち若い年代の読書における課題を解決するためには、情報機器とうまくつきあって本を読む時間を確保することが必要になってくると言えるでしょう。

Cさん　同じくグラフ2からは、すべての年代と比べて私たち若い年代には「良い本の選び方が分からない」という課題があることが分かります。その課題を解決するためには、学校図書館など自分の身近な読書環境を積極的に活用することも重要です。

Bさん　一方、グラフ3「読書をすることの良いところ」の項目を見ると、「豊かな言葉や表現を学べること」や「新しい知識や情報を得られること」を選んでいる人が多いということが分かりました。

Dさん　読書には、たくさん良いところがあるということですね。このことから、私たちは、もっと読書のすばらしさを実感することが大切であると考えます。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Aさん　ここまで、読書の現状と課題について話してきましたが、私たちが考えなければならないことについては、Bさん、Cさん、Dさんがまとめてくれていたように思います。それらをふまえ、読書における課題を解決するために大切なことを改めて整理すると、

「私たちは、　　　　　　　　大切である。」

ということになります。

読書は、それまでと違うものの見方や論理的な思考を身に付けるきっかけにもなります。本日の話し合いを参考に、みんなが積極的に本を読むよう働きかけていきましょう。

(ア)　本文中の［Ⅰ］・［Ⅱ］に入れるものとして最も適するものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

Ⅰ
1　「書店」の販売額が大幅に減少していることに伴い、全体の販売額は約四割減っている
2　「コンビニエンスストア」での販売額が増えていることに伴い、全体の販売額は約三割減っている
3　「インターネット」での販売額は増えているものの、全体の販売額は約二割減っている
4　「その他」の販売額は横ばいであり、全体の販売額もほとんど変わりがない

Ⅱ
1　一番大きいのは「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」
2　一番大きいのは「情報機器で時間が取られる」
3　一番小さいのは「テレビの方が魅力的である」
4　一番小さいのは「読書の必要性を感じない」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

(イ) 本文中の［　　］に適する「Aさん」のことばを、次の①～③の条件を満たした**一文**で書きなさい。

① 書き出しの［私たちは、］という語句に続けて書き、文末の［大切である。］という語句につながるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が**六十五字以上七十五字以内**となるように書くこと。

③「読書における課題を解決するために大切なこと」について三つの点に触れていること。

私たちは、

大切である。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

〈Note〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

二〇一七年度　神奈川県公立高校入試問題

一

解答

(ア) 1、こうけん　2、かせん　3、はんぷ　4、さと(す)
(イ) a、1　b、2　c、4　d、2
(ウ) 3
(エ) 4

解説

(イ) aは「講演」、bは「予測」、cは「沿革」、dは「率いて」と書く。

(ウ) ある事柄に引き続いて他の事柄が起こることを示す接続助詞の組み合わせをおさえる。アは共同の相手、エは作用の結果を表す。

(エ) さまざまなものに雪が降り積もる中、まだ「もののかたち」がわかる状態を表現している。

二

解答

(ア) 1　(イ) 3　(ウ) 4　(エ) 2

解説

(ア) このあと、「農人」が「苗のころにいたり、心をつくして植ゑつけける」とある。領主の言葉を受けて、「農人」が苗を大切に植えたことから、この場合の「養ふ」が「育てる」という意味であることをおさえる。

(イ) 「心をつくして」植えた結果を考える。「変はらずよく生ひいで」は、鶴が与えたときの「穂の一枝に稲四五百粒あり」という状態と同じように育ったということ。

(ウ) 「東五郎」が「籾を一二粒賜はれかし」と言ったのに対し、「主人」は「籾五六十粒」を与えている。「ことさらに」は、稲がよく育つことを強調している。

(エ) 「小千谷の…芳沢屋東五郎」は、西国の「旅宿の主」から、「この近在の農人」が命を助けた鶴から米がよく実る稲をもらったという話を聞き、その家を訪ねている。その「農人」から分けてもらった籾を小千谷に持ち帰り、「邦君に奉りし」とある。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三

口語訳

天保七年の春、小千谷の縮織りの商人、芳沢屋東五郎という者は、商売のため西国に来て、ある城下町に滞在している間に、旅館の主人の話で、「この近くにいる農民が、自分の田んぼに病気の鶴がいて死にそうになっているのを見つけ、貯蔵していたニンジンで鶴の看病をすると、鶴は何日もたたないで病気が治り飛び去った。さて翌年の十月、二羽の鶴がその農民の家の庭近くに舞い降り、稲の茎を二本落とし、一声ずつ鳴いて飛び去った。その農家の主人が拾ってみると、その長さは一・八メートル以上で、穂もこれに合わせて長く、穂の一枝に稲が四、五百粒ついている。主人は、『さては、去年の病気の鶴が、恩に報いるために異国からくわえてきたのだろう。何であっても、とても珍しい稲である。』と思い、領主に献上したところ、領主はしばらくとどめ置いたあとで、そのまま主人にくださり、『米を大切に育てなさい。』とおっしゃったので、田植えのころになって、その農民は気持ちをこめて植えつけた。そうすると鶴がもたらした稲と同じく立派に成長したので、国守へも献上した。」と語った。

東五郎はそこでその村のその農民の家を尋ねると、鶴を助けた人は東五郎が縮織りを売った家なので、すぐにその家にたどり着いた。さらにくわしく話を聞いて、「ところで国への土産にしたいので、籾を一、二粒くださいませ。」と求めたところ、主人は「越後は良い米が多く生産される国と聞いていますので、苗を植えたら格別によく育つことでしょう。」と言って、籾を五、六十粒くれた。それを、東五郎は国へ持ち帰り、事情を申し上げて、小千谷の領主に献上したのを、ご城内で植えさせなさって、東五郎へごほうびなどがあった。

解答

(ア) 4　(イ) 2　(ウ) 1　(エ) 4　(オ) 1　(カ) 3

解説

(ア) 自分が一番楽しいときをすぐに答える「浩一」に対して、「兄ちゃんにはもう、核があるんだな」とあこがれ、うらやましく思う様子を表す。

(イ) 齣江は母親が「長屋中に響き渡る声」で「雷を落とした」ので、「住人と接するのが気恥ずかしいのだろう」と、「浩三」のことを気

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

にかけていた。「後先なく」は、「言うべき言葉を用意していなかった」という状態で不意に呼び止めたことを表している。

(ウ)「丸まっていた背が少しく伸びた」という変化や、「幅跳びでもするような足取り」という軽快さに着目する。自分が「どうにもむつかしいところ」を抱えていることについて、「そこのところが浩ちゃんなのね」「そこがないと困るのよ」と認めてもらったときの気持ちを考える。

(エ)「金のことよりあの子の気持ちだ」と言って、「浩三」の中学校に行きたいという気持ちに理解を示している。渋柿の処理の話をしたあとで、「なんにでも抜け道がある」と言っていることから、学資もなんとかなると思う気持ちをおさえる。

(オ)「余分なものを全部こそげ落として核だけになっていく様」を思い浮かべながら、母親に「中学校に行かせてください」と頼む決心をしていることから考える。

(カ)進学したいと言えずにいた「浩三」が「頼んでみよう」と決心するまでの様子や、周囲の人たちがそういう「浩三」を見守る様子が描かれている。「浩三」と「齣江」、「齣江」と「おかみさん」、「浩一」と「浩三」の会話にそれぞれの心情が表され、満開の桜の描写が、「浩一」と「浩三」の会話の場面で効果的に使われている。

四

解答

(ア)3　(イ)1　(ウ)3　(エ)2　(オ)人間の本来の営みの回復をめざして、社会のなかでの自分たちの役割を、仕事づくりを通して実現していこうという(動き。)(52字)(同意可)　(カ)1　(キ)4

解説

(ア)「多くのものは、それぞれの論理でつくりだされただけ」であり、「根源的」には「社会的な必要性があるとはいえない」ことをおさえる。

(イ)経済が根源的な社会性をもっていないというシステムのなかで働くことは、根本的に「社会性をもってはいない」ことになる。その結果、「自分の労働が社会から必要と…感じとれない虚しさ」や「そこに自分の生活の出発点があり…自己実現の場がない現実」を感じながら働くことになっていると述べている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

(ウ)「経済は何のためにあるのか」を考え、「経済と社会の関係をもう一度検討しなおして」いくことが必要であるという考えをおさえる。

(エ)「さまざまな労働が大企業に組織化されて」いったことを表す。具体的には、農民や商店、職人などの「自営の人たち」が減少して「企業のもとに組織化されていった」という変化や、「中小企業」も「大企業の下請化していく傾向」が強まったという変化である。

(オ) 一般的に「ソーシャル・ビジネス、あるいはエシカル・ビジネス」と呼ばれている動きのこと。「社会のなかでの自分たちの役割を…実現していこうという動き」であり、「人間の本来の営みの回復をめざす」ものであることをおさえる。

(カ)「経済活動の社会性を回復させよう」「他者を犠牲にしない、ともに生きる経済をつくりだそう」として、「農村の人々とともに生きることのできる経済」や「途上国の人たちとともに生きる経済」「自然という他者とともに生きる経済」をめざしていると述べている。「自然環境を維持していくために…そのセミナーを有料化して事業として展開させる」という事例も挙げられている。1の「都市からの移住者だけでコミュニティを作り」という行動は合わない。

(キ) 社会のあり方と経済が一体化していないなか、自分の労働に「虚しさ」を感じてしまうという現状を挙げ、「社会的に有意義な労働などありようもない」と述べている。その上で、「経済が経済以外のものと結びついて展開するかたちを見つけだす」という課題を示し、「NPOなどの活動」の「ソーシャル・ビジネス」や、「コミュニティ・ビジネス」「フェアトレード」などの事例が挙げられている。

五

解答

(ア) Ⅰ、3　Ⅱ、2　(イ)(私たちは、)情報機器とうまくつきあって本を読む時間を確保するとともに、学校図書館など自分の身近な読書環境を積極的に活用して、もっと読書のすばらしさを実感することが(大切である。)(75字)(同意可)

解説

(ア) Ⅰ、平成19年度と平成25年度で、増えているのは「インターネット」での販売額。全体の販売額は、約二一、五〇〇億円から約一七、〇〇〇億円へと約二割の減少になっている。Ⅱ、「十六～十九歳」と「すべての年代」の差が一番大きいのは、「情報機器で時

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。

間が取られる」の二十六％で、一番小さいのは、「近所に本屋や図書館がない」の一・五％である。直後でBさんが「情報機器とうまくつきあって…」と発言していることにも着目する。

(イ) Bさんの「情報機器とうまくつきあって本を読む時間を確保することが必要」、Cさんの「学校図書館など自分の身近な読書環境を積極的に活用することも重要」、Dさんの「もっと読書のすばらしさを実感することが大切」という発言をまとめる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製･転載を禁止します。